

## 2003年、株主、投資家のみなさまへの年頭挨拶

2003.1月6日

代表取締役社長 友澤武昭

明けましておめでとうございます。

新年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

2003年、羊の年の始まりであります。羊の年は「戦い」の多い年と言われております。弊社では毎年シンボルとなる文字を社員から募集し、定めておりますが36期のシンボル文字も期せずしてこの文字を使っております。イラクや北朝鮮の問題は、なるべく武力なしで平和裏におさまってほしいものです。シンボル文字の「戦」は武力ではなく、知力と汗を使う自分の戦いであると存じております。10年この方苦しい不景気が続いておりますが、我々の敵はこの不況ではありません。数年先、景気が回復した暁においても、我々の仕事を作り出せるかどうか大きな課題であり、作り出してゆく体質に変わって行くための、自分自身との闘いであると考えております。

コンサルタントの仕事が世の中で認知されるかどうか、コンサルタントがしっかりした権威を獲得できるかどうか、昨年中期経営計画説明会の折に、もし日本が再び鎖国できるようなら、コンサルタントは不要な社会になるだろうと申しました。必ず認知されるようになりたいのが、コンサルタントを目指した者の必死の願いであります。

この意味で、暮の新聞に我々にとって興味のある記事が出ておりました。「コンサル会社完全に分離」という見出しです。内容は、監査法人（企業の監査を行う会社）の大手会社が行っていた、情報システムサービス等の企業向けコンサルタント業務を監査法人から完全に分離して、資本のつながりも何もない別の会社や組織にしたというものです。その理由は、コンサルタント業務の独立性、中立性を確保する為です。日経新聞にこのような記事が出て、しかもコンサルタントではなく「コンサル」の略省名でかけられること自体、コンサルというサービス業が一般的になって来た事として大変嬉しく思い、また、コンサルタントの要件が世間で認知され、評価の対象となり始めた証扱いと読み取れ、心強く感じた記事でありました。

コンサルタントが日本の文化の中で消化され、コンサルタントの活躍が必要

とされる社会構造に向かっていることは間違いありません。

一方、我々の市場とする公共事業の分野では、国土交通省自体が、従来の存在を「作業部隊」or「工場」と反省され、これからは行政システムを「経営体」として運営することで、新しい行政への脱皮を図る計画との事です。状来の「作業部隊」から発注されていた業務での量の増加は、望むべくもありません。我々は新しく「経営体」として運営される行政システムのコンサルタントに変貌していくことが最重要課題となります。国際舞台で活躍中の海外勢はすでにこのような形に変貌を遂げ、その存在価値を發揮しております。変貌へのストーリーの第一段階は、中期経営計画に示すとおりであります。

今年は、中期計画の実現に向けて最初の歯車を回転させる重要な年でありませぬ。私自身を含めて考え倒れにならぬよう確実にPDCAを回しきって行きたいと願う所であります。

さて、ここでより身近な所に焦点を変えまして、ご報告をさせていただきます。まず、昨年11月に(株)長大テックを設立いたしました。

行政支援のための人材派遣を行う会社ですが、先ほど述べました行政経営体(新しく変革された行政体)向けの新しいコンサルティング活動への布石の一つであります。

次に、本日より全社統合ISOの運用に向けて、本社を含めた全社レベルでのISO9001/ISO14001に取り組んでまいります。これにより、管理部門等生産工号のない部署においてもマネジメントシステムを実行してまいります。

最後になりますが、これからは、人・夢・技術&サービスで全員一丸となつて新しい時代の声に応えていきたいと願っております。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

以上

